

# SGS Newsletter

発行日 2010年8月31日

## 学部長あいさつ

目次：

学部長あいさつ	1
就職状況	1
TOEIC成績優秀者表彰	2
授業紹介	3
NEWS	3
教員の異動	4

SGS Newsletter第1号をお届けします。

SGSは開設4年目を迎え、1年次から4年次まで揃い、在籍者数は約500名となりました。キャリア支援課からのニュースのとおり、一期生の多くが就職活動を行い、大いに健闘しております。厳しい就職戦線の中、又、OB/OGのアドバイスも無い中、善戦していると思います。10月1日の内定式までには更に希望先からオファーが得られるように支援します。

昨年秋の学園祭で、藤沢市との連携協定を海老根市長と調印し、地域連携を深めています。グローバルな視点でローカルにも根付いた学部を目指すためです。本年1月から3月にかけて、湘南台高校、藤沢清流高校、藤沢西高校と高大連携協定を結び、関係を深めています。又、私は湘南高校と藤沢清流高校の評議員を拝命し、特に、キャリア形成の観点から高校と大学が連携して学生を社会に輩出する方法を考えたいと思っております。藤沢市教育委員会とは、9月に



市民講座(3回)を開講し、藤沢市内の公立小学校での英語の授業へのSGS学生の協力を開始しました。

英語によるコミュニケーション力や、積極的に行動できることが社会に出るにあたって益々重要になっています。最近、楽天や、ユニクロ、ローソンなどこれまでドメスティックに発展してきた業種が、留学生の採用や、社内公用語を英語にするなどの動きを始めました。私はSGSの学生に大きなチャンスが広がってきていると思います。国内に職を得ても、国内の仕事もすべてグローバルにつながっており、外国人の顧客対応が必要になり、外国人と一緒に働く環境が増えてきます。そのような舞台でも活躍できる人材を輩出したいと教育内容の充実に努めていきます。

昨年11月に多摩大学の国際交流センターが設置され、私がセンター長になり、両学部の国際化を促進することになりました。学生の長期・短期留学先を拡大し、提携校からの交換留学生の受入、外国からの留学生の受入を推進し、キャンパスそのものがグローバルな学習ができる場となるようにしたいと思っています。

本号は第1号として作成したものですので、皆様のご意見を得て、内容や体裁、頻度についても検討してまいりたいと思います。宜しくアドバイスの程お願いいたします。

発行責任者：

学部長 松林正一郎

多摩大学グローバル  
スタディーズ学部

〒252-0805  
神奈川県藤沢市円行  
802番地  
Tel: 0466-83-4141

## 就職状況 キャリア支援課

7月末日までの本学部の現在の内々定状況は、就職希望者46名に対し29名が内々定を得て、内々定率は63%となります。内12名が就職活動を終了し内々定先に確定、残る34名が就職活動継続中です。(因みに、厚生労働省が発表した昨年の10月1日時点の内定率は63%でした。)内々定先はJTB、キューピー、日本通運、アイリスオーヤマ、住商メタレックス、内外日東等サービス業を中心に42社(重複内々定含む)となります。

全般的に今年度の就職戦線は「長期化」が大きな特徴です。例年は4月～5月がピークでそれ以降、求人数が激減しますが、今年度は、7月後半から求人数が増加し、9月にかけて2度目のピークが来ます。したがって、首都圏の学生で就職活動を終了している学生は全体の40%程度で、本学部学生を始め、多くの学生がこの夏も自分の希望に合った企業の内々定獲得に向け、就職活動を続けています。

## TOEIC 成績優秀者表彰

本学部では、英語学習の奨励の一環として、入学後にTOEICのスコアを著しく伸ばした学生を表彰する『学部長賞』を設けています。昨年度と本年度の受賞者は以下の通りです。

2009年4月受賞者 (3年) 酒井ローラさん、安藤史織さん、鷲田葵さん  
(4年) 宮坂貴彦さん、木津詩織さん、長尾宜亮さん

2010年4月受賞者  
(2年)



齋藤菜摘さん

(2年)



小林新之助さん

(3年)



工藤大芳さん

(4年)



石森啓太さん

今回は、今年受賞した薄波公平さんと坂谷陽子さんの受賞の感想を紹介いたします。

受賞の感想は、正直に嬉しいです。これからのモチベーションにも繋がりますし、努力し継続することは、必ず結果につながることを学ぶことができました。入学当初はTOEIC400点しか取れず、他の学生と比べても点数が低く劣等感を感じていました。そんな私が、このようなありがたい賞をいただくことができ大変嬉しく思っています。今後、更なる飛躍のために一層努力していきたいと思えます。

TOEICの伸びた理由としては、「努力」と「継続」だと思っています。1年に2度TOEICを受験し、5回目にしてTOEIC800点を取得することができました。自分の点数の伸びが悪くても、諦めずに継続することが大事だと思います。大学1年の後半に受験した時は、1年間英語の環境にいたにも関わらず15点しか伸びず悩んだ時期があります。そういう辛い時期は、自分がなぜSGSに入学したかを振り返ってみるのもいいかもしれませんね。

また、卒業後は英語を使ってビジネスがしたいと考えていたので努力するきっかけになりました。

勉強方法は、SGSの授業に積極的に参加していれば必然的に点数は上がりますよ。特に大事なことは、自分の苦手な分野を認識することだと思います。私の場合は、文法が苦手なので受験1カ月前から重点的に勉強をしています。またTOEICには、問題を解くテクニックがあると思います。自分なりの解き方を確立することも大事なのではないでしょうか。

最後に、勉強方法に必ずしも正解はないと思います。自分流のやり方を模索していくのも勉強する面白みではないでしょうか。

(4年 薄波公平)



みなさんどうもこんにちは。私は現在3年生としてこの大学で日々勉強しております、坂谷と申します。この度、TOEIC IP学部長賞を頂くことができ、大変うれしく思っています。授賞式の時は、たまたま出席しておらず、賞状などは後日渡していただきました。最初に賞をもらったと聞いたときは、何の賞なのかもよくわからず、あーそうですか、という感じにしか思っていなかったのですが、賞状をいただいたり、記念写真を学部長先生と撮ったり、また教務の人に詳しいお話を聞き、すばらしい賞を取ることができたのだなあと後々になって実感することが出来ました。実は、私の友達もこの賞を取っており、私もほしいなと思っていましたので、今回は本当にうれしかったです。大学在学中にこのような賞を取ることができ、これからの勉強の励みになると同時に卒業した後に学生生活を振り返る時の良い思い出として蘇ることでしょう。

さて、ここでTOEICのスコアがアップしたきっかけ、理由、また勉強法などを少し紹介したいと思います。私は、まず声を大にして言いたいのは、最初はTOEICでよい点を取るために英語の勉強をしたわけではありませんでした。将来のため、そして単純に英語が楽しいし、学校の勉強や宿題をちゃんとやっていたのが基本にあります。しかし、ある程度までくると、やはりTOEICの対策を問題集やら何やらを使ってする必要はあります。なので、TOEICの問題練習(リーディングとリスニング)を何回もして、場数を踏み、またその一方で個人的な英語の勉強をしていました。TOEICの勉強は正直あまり楽しくはないのですが、個人的にやるほうは、とても楽しいですね。具体的には、英語の本を読んだり、テレビで放送される映画や海外ドラマをなるべく副音声の英語で聞いたり、単語はすぐ調べて覚えたり、もう楽しんで勉強しています。結局はこういう勉強がTOEICのスコアアップにつながるのだと思います。

最後に、TOEICスコアが全てではないので、目標はもっと高いところにおくといいと思います。そうしたら自然と結果は後からついてくるでしょう。この度は、大学の先生方や暖かくサポートしていただいた皆様に心より感謝いたします。(3年 坂谷 陽子)





## 授業紹介 Japanese Culture and Society

My course Japanese Culture and Society introduces students to contemporary Japanese Culture and Society. Each week I introduce a different part of Japan and topics range from, Japanese identity, Japan's relationship with the West, to Education, Gender, and Ethnicity. I like to keep my classes as lively and interesting as possible to give students a chance to study in a relaxed interactive atmosphere. I also broaden the learning experience by inviting

guest speakers and musicians to my classes. Most recently, I invited koto and shamisen players to perform in front of my students, which was a very moving, enjoyable and memorable experience.

I hope students enjoyed and profited from my course, and I hope they have a deeper understanding and appreciation for the society they live in.



## ECO多摩がふじさわ環境大賞特別賞を受賞

藤沢市は、環境月間(6月)活動の一環として、また、市制施行70周年記念事業として、環境保全に関する優れた活動・啓発・社会貢献・研究等を対象に「ふじさわ環境大賞」を募集していましたがグローバルスタディーズ学部からは公認サークル ECO多摩が応募し、環境大賞特別賞を受賞しました。

6月27日(日)、藤沢市民会館においてその表彰式が行われ、松林正一郎学部長・宮崎真 多摩大学ECO多摩代表(3年)らが出席し、海老根靖典市長から表彰状、副賞(商品券3万円)の贈呈を受けました。

表彰に引き続き、宮崎代表はスライドを用い、湘南キャンパス～湘南台駅周辺における美化清掃活動や、湘南キャンパス学内でのごみ分別の推進等、その活動内容を発表し、学生が自分達でできる環境活動、地域貢献の重要性を訴えました。



## SECOND WORLD CAFÉが開催されました

2010年6月17日に、第2回World CAFEが開催されました。

「World CAFE」とはグループごとに重要な話題について話し合う公開討論で、英語で行われました。スペシャルゲストとして、グレゴリー・クラーク名誉学長(多摩大学 第3代学長)が参加し、学生への貴重なアドバイスをしました。学生に限らず、教員も職員も奮って参

加して、グローバルスタディーズ学部の良いところ、これからの改善点について話し合いました。最後にグループの代表による発表がありました。



## SGSの講義に海老根藤沢市長が登場！

多摩大学グローバルスタディーズ学部では、コミュニケーション能力向上のため、本年4月から、レディオ湘南のDJ、「DJ・HAGGY」こと萩原浩一さんを、「コミュニケーション」科目の講師として迎えています。

2010年6月15日(火)の授業で、「DJ・HAGGY」と市長がコミュニケーションについて、スペシャル講義を行いました。

「コミュニケーション」の重要性についてだけでなく、藤沢市の現状や市長の人生訓など、幅広くお話しいただきました。本学学生にとっては、大変有意義な講義となりました。

右:海老根藤沢市長 左:DJ HAGGY



# 先生紹介

## Geoffrey Sinha先生

Dear Student and Guardian,

I come from New Zealand. Happily, I began at SGS in April, 2010.

The teachers and staff at SGS are committed to providing the best education for our students.

I am very happy to teach at SGS. Please feel free to contact me about any questions - I would be very happy to meet you.

Sincerely yours,  
Geoffrey Sinha



## 橋詰博樹先生

昨年9月、SGSに加わりました。北海道大学で環境・衛生工学を学び、昭和54年に厚生省に入省して以降、厚生省・環境省を中心に、茨城県庁、水資源開発公団、廃棄物研究財団、世界保健機関（WHO）、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）等で、廃棄物・水・大気保全・温暖化対策等の環境行政に従事。SGSでは、環境保全政策や国際協力に関する科目を担当しています（現在、環境省を研究休職中）。



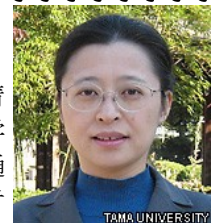
## 石塚智子先生

この3月にUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の言語学部、博士課程を修了し、4月からSGSでAEPの英語を教えている石塚智子と申します。日本語を母国語とする自分が英語をどのように習得してきたか、またアメリカで10年間暮らし、様々な国の人たちとつきあってきた経験などをSGSの学生のみなさまと分かち合えるのをとても楽しみにしております。



## 張琪 Zhang Qi先生

1993年浙江大学（中国杭州）情報・電子工学研究科にて工学修士学位取得。1998年電気通信大学（日本東京）情報システム学研究科にて博士（工学）学位取得。電気通信大学でCOE研究員（中核的研究機関研究員）を経て、2001年株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所に入社。2009年11月より多摩大学グローバルスタディーズ学部准教授。研究分野は、情報通信、脳科学、認知科学、システムバイオロジー。



Good Bye, Professor Brian Rugen !

It is my sincere regret that I have to announce my departure from Tama University, SGS. In early July, I was offered a full-time faculty position at a private university in Hawaii. In this new position, I will be developing the graduate program in applied linguistics, while teaching graduate and undergraduate courses to American and international students.

I will really miss SGS. I have enjoyed working for Dean Matsubayashi, and I am confident that his vision for SGS will be realized as the University continues to grow and gain respect in Japan and, indeed, across the world. My colleagues at SGS have been wonderful to work with as well, and I appreciate their support. And finally, the people I will miss the most are the students. The moments I have spent with the students—in class, at lunch, playing basketball, visiting academic lectures in Tokyo, etc—have been very special to me. I look forward to seeing our students at SGS graduate and move out into the world where, as bright and confident young adults, they will be able to truly *make a difference* in our global society.

Mahalo Nui Loa, Brian D. Rugen, Ph.D.



\*Chandler先生は、契約更新をされず、今年3月末でSGSをお辞めになりました。